大阪インターナショナルチャーチ
ジョセフ・トッティス牧師
2014年3月16日

ペテロの手紙　第一5:8-14

クリスチャンには、たましいの敵が３つあります。サタン、この世、そして私たち自身の肉です。このビデオを見てください。

https://www.youtube.com/watch?v=LU8DDYz68kM
３つの敵がわかったでしょうか。サタンとその悪霊たちは・・・獅子です。この世は・・・ワニです。私たちの肉は・・・牛です。牛は希望を失っています。助けが来るまで、自由になろうと戦うことをしませんでした。逃げてはいけません。あきらめないでください。あきらめなければ、希望があります。これを念頭に、今日の学びを始める前に祈りましょう。

１ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

~**身を慎む**とは、自制をもって、愚かではなく分別ある考えを持つことです。
~**目を覚ましている**とは、霊的な落とし穴に気をつけて、適切な対処をし、つまずかないようにすることです。

なぜペテロは、身を慎んで目を覚ましているよう勧めるのでしょう。次のような理由があります。

~ **あなたがたの敵**：サタンは私たちの宿命の敵です。
サタンは予期せぬときに攻撃し、人を完全に破滅させようとします。
ライオンは、弱い動物、老いたものか子どもを狙います。または一匹になっているものを狙います。だからライオンは吠えるのです。群れが恐れて逃げ出すと、獲物が群れとはぐれてひとりぼっちになるからです。私たちを怖がらせるためです。逃げれば、捕まってしまいます。だから、群れでいることがとても大切なのです。

ヘブル 10:24-25 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。**25** ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

私たちはなぜ集まるのでしょう。ネットでメッセージを聞けばよいではないでしょうか。群れでいることに安全性があるからです。でも、私はサタンなんて怖くない、と

思う人もいるかもしれません。長年クリスチャンとして生きてきたから、主以外は誰も必要ないと思う人がいるかもしれません。そして、次のようなみことばを引用します。

ローマ 8:31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

1ヨハネ 4:4 子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

これらのみことばは真理です。このみことばの真理によって、敵の攻撃に耐えることができるのです。しかし、ひとりぼっちではなく、ともに耐えるのです。

伝道者の書 4:12 もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。

サタンはこのことを知っています。だからほえたけるのです。私たちをバラバラにして打ち負かすためです。それがサタンのやり方です。私たちは主にある兄弟姉妹のことを気にかけているのでしょうか。キリストが命じられたように、互いに愛し合っているでしょうか。それとも、「クリスチャンは自立するもの」「強い者が生き残る」という考え方でしょうか。

ヨシさんとキノさんは友だちです。ふたりはあるとき、アフリカのサファリを訪れました。ガイドは、このあたりにはライオンがいるので必ずいっしょに行動してください、とふたりに言いました。その夜、ふたりは宿泊するテントを張りました。ヨシさんは新しいスニーカーを取り出して履きました。キノさんは、なぜスニーカーを履いているのかとヨシさんに尋ねました。ヨシさんは言いました。「ライオンが来たときに備えてね。」「そんなものを履いても、ライオンより速く走れないよ。」とキノさん。ヨシさんは答えました。「ライオンより速くなくていいよ。君より速く走れればいいんだ！」

次の日、ヨシさんは新しいスニーカーを履いて、ひとりでジョギングに出かけました。すると突然、ライオンが現れてヨシさんを追いかけ始めました。ヨシさんは全速力で逃げます。目の前には崖が見えました。もう逃げる場所はありません。絶体絶命です。ヨシさんが振り返ると、ライオンが舌なめずりをしながらゆっくりと近づいてくるではありませんか。このときヨシさんにできるのは、ただ祈ることだけでした。ヨシさんは目を閉じて、「神様、どうかこのライオンがクリスチャンのライオンでありますように。アーメン」と祈りました。そして目を上げると、なんとライオンが前足を合わせ、頭を垂れて祈るような格好をしています。ヨシさんは目を疑いました。そのとき、ライオンがこう言うのが聞こえました。「神様、おいしい食事をありがとうございます。アーメン。」つまり何が言いたいかと言うと、サタンから逃げてはいけないということです。ペテロは言います。

1ペテロ 5:9 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。

私たちは、走るのではなく、立ち向かうように命じられています。逃げるのではなく、戦うようにです。

2テモテ 1:7 神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。

主に助けを求め、主を信じましょう！

ローマ **10:13**「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

1ペテロ 5:10 あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。

神は、私たちが苦しみに遭わないとは約束しておられません。敵の攻撃は必ずあります。そして、それは心地よいものではありません。しかし、神は約束しておられます。

~ **私たちを完成してくださいます。**医者が折れた骨をもとに戻すように、神は私たちの壊れた人生を立て直し、私たちを完全な者にしてくださいます。
~ **堅く立たせてくださいます。**この世の苦しみの中で不安定に感じるときでも、私たちの行く手を確かなものとしてくださいます。
~**私たちを強めてくださいます。**神は、私たちが神のためにしようとすることをやり遂げられるように力を与えてくださいます。
~ **不動の者としてくださいます。**敵の攻撃に立ち向かった結果、神は私たちの内に固い土台を築いてくださり、**断固たるしっかりした**者にしてくださいます。

これは約束ですが、これを信じる信仰のない人もいます。教会として、・・・一致団結することの重要性と力をこのビデオでも見ました。サタンが捕らえた人を取り戻すために、恐れずに行動する必要があります。もしその人が主を信じようとせず、戦おうともせず、あなたの助けも必要ないと言うなら、それはその人の問題です。少なくとも、あなたはその人を助けようとしたのですから、主の前で平安を持つことができるでしょう。でも、その人が助けを拒むなら、それは悲しいことです。

1ペテロ 5:11 どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。

「アーメン」という言葉は、ヘブル語から、新約のギリシャ語に直接転写され、ラテン語、英語、そして他の多くの言葉でもそのまま使われています。ですから、世界共通語と言っても過言ではありません。人間の言語で一番知られている単語だと言われています。この単語はヘブル語の「信じる」（アマン）または忠実であるという単語に直接関係しています。そして、「もちろん」「本当に」「そうなりますように」など、完全な信頼と確信を表す単語となりました。神のみことばに「アーメン」と答えるのは、ユダヤ教の慣わしから来ています。それは、聞いたことすべてが真実で、それを聞いた人はその真実を実行すると宣言するものです。人が神に真剣に祈り、他の人がそれに「アーメン」と答えることによって、そこで祈られた内容はそのまま自分の祈りとなるわけです。

<u>１ペテロ 5:12</u> 私の認めている忠実な兄弟シルワノによって、私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。

シルワノ、アラム語の名はシラスですが、彼はペテロとパウロとともに働いていました。敵やサタン自身に立ち向かいなさいと勧めていますが、自力でするのではないという点に注目してください。それは、私たちの正しさではありません。神の前に自分の善良さで立つことのできる人はいません。私たちは自分をへりくだらせ、神の真の恵みのうちに立つ必要があります。

<u>１ペテロ 5:13</u> バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。

「婦人」というのは、ペテロがこの手紙を書いているときにいた町の地域教会の人々を指しています。

「バビロン」は、文字通りバビロンの町を指している可能性もあります。（ペテロの時代にはまだその町はありました。）または、ローマかエルサレムを比ゆ的に指している可能性もあります。ペテロの時代に、古代バビロンのように神に逆らう邪悪な町として知られていたのがこの二つの町です。

「**あなたがたとともに選ばれた**」とは、神の民となるよう神に選ばれたすべての神の民を指しています。

そして「**マルコ**」は信仰においてのペテロの息子であり、血のつながった息子ではありません。

<u>１ペテロ 5:14</u> 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

初代のクリスチャンや当時のユダヤ人は、信者同士の挨拶の際、頬にキスをしました。今でも多くの文化で同じ習慣があります。ここでペテロは、信者同士を神の大家族の一員として扱うよう勧めています。なぜ私たちはそうしないのでしょう。ここで愛と訳されているギリシャ語の単語はエロスではなく、アガペです。アガペは、無条件の愛です。神は私たちをそのような愛で愛してくださり、互いにそのような愛で愛し合うことを望んでおられます。エロスは、ギリシャ語の単語で性的な愛を意味しま

す。エロチックという単語の語源となっています。多くの文化でこの習慣が失われてしまった理由がそこにあります。人々は、エロスのキスとアガペのキスの違いを知る分別がなかったからです。それで、初代教会にも問題が起こりました。そこで、4世紀ごろまでには、キスは同姓同士のみに制限する規則が教会に作られました。そうすることで、楽しみを取り去ってしまったのです。徐々に、西洋文化ではその習慣が完全に失われてしまいました。美しい愛情表現であり、心に触れるもののはずですが、残念なことに、教会で多くの問題を引き起こしてしまいました。私たちは自分の気持ちや感情をもっと表現したいと思いますが、それを正しい心で受け取らない人がいたり、正しい心で与えない人がいたりするという理由で、愛情表現を制限しなければならなくなりました。そこで日本ではお辞儀をします。外国人はハグをしたりして日本人をびっくりさせてしまうこともあります。しかし、ここで重要なことは何を示すことでしょう。アガペの愛です。ペテロの手紙第一を終わるにあたって、気づいていただきたいことがあります。それは、どの章でも、神の愛、アガペを互いに示すようペテロが励ましていることです。

1ペテロ 1:22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

1ペテロ 2:17 すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。

1ペテロ 3:8 最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。

1ペテロ 4:8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

1ペテロ 5:14 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

祈りましょう。